

令和2年度 第2回 「生徒による授業アンケート」(1学年)の集計結果等について(報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

つきましては、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

〔問合せ先 副校長 (046)241-8001〕

1 アンケートの実施日

令和2年12月25日(金)

2 各教科の集計分析・授業改善(概略)

国語	集計分析	「授業のあり方」については「取り組みやすく理解度に合わせた授業」「他者の考えを知る機会」という項目で肯定的回答を選んだ生徒が多かった。おおむね肯定的な評価を得ており、生徒に丁寧に対応しているといえる。また、学習の状況については「予習・復習をしている」という項目で、否定的回答を選んだ生徒が50%以上であった。課題や小テストなどに向けた学習は行っているが、授業内容の予習や復習について積極的に取り組んでいる状況ではないと考えられる。
	授業改善	授業内で、生徒自身に考えさせる機会を増やし、考えを組み立てる力を養うとともに、書く作業を増やすことで自らの考えを文章でわかりやすく表現する力をつけさせていきたい。また、生徒の予習・復習を促すため、家庭学習の方法を指導したり、学習意欲を高めるような家庭学習用の教材を作ったりすることも考えたい。具体的には授業内容の復習を行う課題を作成するとともに、その内容についての小テストを定期的実施することで授業内容の定着を図りたい。また、対話的な授業を増やし、他者の考えを知り、自分の考えをさらに深めるという学習を行っていきたい。その際は、タブレットを積極的に活用するなどして、引き続き感染症予防に十分注意しながら行っていく。
地歴・公民	集計分析	「授業のあり方」については、「学習の見通しと振り返りの機会」「他者の考えを知る機会」で肯定的回答をした生徒が多く、学習状況については、「わかる努力をしている」「意欲的に取り組んでいる」で、肯定的回答をしている生徒が多かった。授業内で考える時間や発表する時間を設けて、テーマに合わせたグループワークを実施したことが、生徒の意欲向上につながったと分析できた。一方、「予習・復習をしている」では、否定的回答をした生徒が多く、家庭学習の習慣が身につけていないことが分析できた。
	授業改善	生徒が興味関心を持ち、理解しやすい授業を行うようにする。そのために、導入で授業の内容と目標を明確に伝える時間と、生徒が活動をする時間をバランス良く取り入れられるようにする。さらに、課題を課したり、時事問題を多く取り入れるなどして、家庭学習の習慣を身に付けられるよう指導していく。
数学	集計分析	数学I、数学Aともに、1学期で肯定的回答率が高かった項目は引き続き高い傾向にあった。難しい内容が増えているが、「身についたことを実感できた」という評価が高いので、基礎・基本の定着が引き続きできている。また、「学習の見通しと振り返りの機会」での項目の肯定的回答率が高いこともその要因の一つであると考えられる。1学期の課題でもあった、予習・復習の部分の復習をする機会の増加につながっている。
	授業改善	数学I、数学Aともに、2学期以降、小テストを実施する回数が増えたことにより、復習する機会が増え、テストの成果にも表れている。また、朝補習を行ったことも成果としてでている。課題としては、「自分の考えを深めることができた」と実感できる授業作りである。教師指導型の授業展開が多くなる傾向にあるので、その部分の改善を図っていきたい。
理科	集計分析	物理基礎では、1学期と比べて全体的に肯定的回答をした生徒が減少した。特に、「他者の考えを知る機会」ではグループ活動等の機会が1学期と比べ減少したことが原因の一つであると考えられる。また、「予習・復習をしている」の項目では授業内容への理解が追いつかない生徒が多いことが原因の一つであると考えられる。 生物基礎では、ほとんどの項目で否定的回答の割合に減少傾向がみられた。一方で、かなりあてはまると回答した生徒の割合にも減少傾向が見られた。依然予習・復習をあまりしていない、ほとんどしていない生徒が半数近く見られた。単元の難易度が上がり、意欲がやや減少していることが原因の一つとして考えられる。
	授業改善	物理基礎では、他者の考えを共有できる機会を増やせるよう教材の工夫をしていきたい。また、積極的に生徒自身が主体的に取り組むことができるような課題を設定して予習・復習を習慣化させ、充実した授業となるよう改善していきたい。 生物基礎では、生徒の興味関心を引き出すように努め、生徒が意欲的に取り組めるように心掛けていきたい。また、予習・復習をするように促すだけでなく、授業でも積極的に学習内容を振り返る機会を設け、知識の定着を促していきたい。

令和2年度 第2回 「生徒による授業アンケート」(1学年)の集計結果等について (報告)

保健体育	集計分析	<p>体育・専門体育では、多くの項目において肯定的回答率が80%以上であり、生徒の満足度が高い。生徒の能力や課題に応じたわかりやすい説明や、段階的な指導法の工夫によって、多くの生徒が達成感を得ることができている。</p> <p>武道については、感染症の関係で消毒等の対策や柔道の組んでの練習も相手を限定したり時間を限定して、基礎基本を大切にした指導や、礼儀作法の意味などを丁寧に説明しながら授業を行った結果、多くの項目において肯定的回答率が70%以上であった。また、生徒の技術の習熟度も向上してきている。</p> <p>保健、スポーツ概論の座学でも、実技科目同様に多くの項目において肯定的回答率が80%以上であり、生徒の満足度が高い。今後、肯定的回答率がさらに高くなるように、授業内容を精選していく。</p> <p>スポーツ科学科のある学校として、体育分野にスポーツ科学の内容を入れながら、今後も指導していく。</p>
	授業改善	<p>緊急事態宣言を受け、感染症対策は3学期以降もさらに気を付けなければならない。種目についてもその視点から見直し設定する。特に、武道や対人の場面がある球技などでは状況に応じてできるように、教員の指導に関して情報共有しながら実施していく。</p> <p>また、設定種目や同時展開の場所の工夫などについてさらに検討する。</p>
英語	集計分析	<p>コミュニケーション英語Ⅰは1学期と比べ、全体的に肯定的回答をした生徒が多くなった。授業のあり方に関する各項目において、90%近くの生徒から肯定的回答を得ている。しかし、生徒自身の取組み状況については、予習復習に関する項目では肯定的回答をしている生徒は70%程度だった。1学期に続いてこの項目が低かったのは、やはり、学習習慣をつけさせることができているからだと考える。英語表現Ⅰでは各項目で肯定的回答率は60%程度になっている。1学期と比較しても全体的にかなり下がっているため、3学期に活かしていきたい。</p>
	授業改善	<p>1学期以上に学習した表現や語彙等を定着させるための家庭学習の習慣の定着を図る。家庭学習なくして、基礎学力の向上は見込めないと考えている。しかし、課題に限らず、自ら英語に関する興味を深め、学習する意欲を育成できるような授業改善をしたい。身につけたことを振り返ることができるような時間を設け、何を身につけてきたのかがわかるような授業展開を図っていききたい。また、既習事項に対する理解が乏しい生徒も数多くみられるので、そのような部分も3学期では扱っていききたい。</p>
家庭	集計分析	<p>1学期と比較して全体的に肯定的回答をした生徒が減少した。原因として、2学期は扱う単元が多く、学習内容の定着ができなかった生徒が増えたためだと考える。「取り組みやすく理解度に合わせた授業」や「意欲的に取り組んでいる」については、食生活や衣生活など生徒の生活に通じる身近な題材を扱ったため、肯定的回答をした生徒が多かった。</p>
	授業改善	<p>授業に達成感をもって取り組むことができるように、授業目標に向けて自分の考えをまとめやすくするために適切な資料の提示、知識の定着を図っていききたい。また、ワークプリントをわかりやすくしたり、話し合いや発表をする機会を増やすことで、他者の意見などからも授業に対して関心や意欲をもたせられるようにしたい。</p>
芸術	集計分析	<p>「授業のあり方」について、評価項目の「取り組みやすく理解度に合わせた授業」、「学習の見返しと振り返りの機会」では80%以上の生徒が肯定的回答をしている。「考えをまとめたりする場面」では肯定的回答率は80%を満たしていないことから、授業の展開の仕方に起因しているのではと考える。また、「予習・復習をしている」については否定的回答率は40%を超えていることから、授業内容の指導方法を改善する必要があると考える。</p>
	授業改善	<p>「予習・復習をしている」では、否定的回答率が40%を超えており、授業内容をフィードバックしたり、授業内容の関連性についても生徒に明確に伝わるよう改善したい。また、授業内容の予習復習のきっかけを持たせるために、授業内での目標・課題意識を保持させることも強化・改善していききたい。</p>
情報	集計分析	<p>「取り組みやすく理解度に合わせた授業」の項目と「身についたことを実感できた」の項目では肯定的回答率が高く、演習中心の授業としては良いことであると思う。「予習復習」の項目はパソコンを利用する環境が家に整っていない家庭も多いこともあり低くなっている。それ以外の項目は80%前後の肯定的回答率となっている。</p>
	授業改善	<p>本時はどのような内容を扱い、何を理解し、何をできるようにしてほしいのか目的を明確に示し、生徒が興味を持って取り組める授業を展開していききたい。また、授業内容は詰め込みすぎず、生徒が主体的にしっかり考えられる教材を準備したい。理解度を確認しながら、多くの生徒が満足できるような授業改善を行なっていききたい。パソコンの操作に限らず、情報社会の中のモラルや知識も深めていききたい。</p>